

(2022年8月号掲載)

## 群馬県における建設業の動向

群馬経済研究所主席研究員 伊勢和広

### 調査のポイント

2011年度を底に本県建設業の業況は比較的堅調に推移してきたが、近年はコロナ禍に資材価格上昇も加わって経営環境が悪化しつつある。本稿は統計データの分析を行いながら、近年の業界動向や今後の課題等を探るものである。

### 要約

- 県内の建設投資額をみると、21年度は1996年度と比べると約5割の水準まで減少している。一方、群馬経済研究所の「企業経営動向調査」から県内建設業の労働力の状況を見ると、人員状況DIは「不足」が「過剰」を上回る状況が長期間続いている。
- 当研究所が一般社団法人群馬県建設業協会に行ったヒアリングによると、建設業界には、①人材の確保育成、②生産性の向上、③災害対応力の維持、等の大きな課題がある。
- 人材を確保するには、「生産性の向上」実現を通じて、3K職場といわれる就業環境の改善等を行っていく必要がある。「建設DX<sup>(注)</sup>」は「生産性向上」のための有用な方法の一つになると思われる。

(注) 建設DX：「DX(デジタルトランスフォーメーション)」は、「新しいデジタル技術を活用することで、既存のビジネスモデルそのものから脱却(変革)して、新たな価値を生み出せるビジネスモデルを再構築すること」である。「建設DX」とは、デジタル技術等を活用して、建設業務の省人化や高速化、高度化を劇的に進め、建設業のビジネスモデルそのものを再構築することである。